



懇親会で与野党「タクシー業界応援団」

(左から) 自民・盛山、公明・富田、国民・泉—の各氏。

そろって「ライドシェア断固反対」

7日開催の全タク連事業者大会終了後の懇親会には与野党各党のタクシー業界応援団代表が登壇した。

自民党タクシー・ハイヤー議員連盟の盛山正仁・事務局長は「タクシーをとりまく状況は厳しい。しかし、川鍋（一朝）会長や皆さんのご尽力、創意工夫により地域の足としての役割を果たしておられる。地域公共交通を守ることがタクシー最大のポイント。実証実験を含めさまざまなサービスに取り組まれていることに敬意を表したい。この数年、ライドシェアなどをはじめ、規制改革推進会議など実態を知らない方、ITなど実態のない産業の方々からあれもこれもと、いろんなことを言うてくる。現実に地域の足を支えているのは皆さんだ。そうした実態を知らずに過剰な規制改革を進めることには断固、反対していきたいと思っている」などと述べた。

公明党ハイヤー・タクシー振興議員懇話会の富田茂之会長は「通常国会では川鍋会長らの尽力により何とか規制改革推進会議の圧力を跳ね返すことができた。しかし、今夏にソフトバンクグループの孫正義・会長兼社長が『ばかな国』というふうな発言をされてから、いろんなことが起きている。ソフトバンクが中国の会社（*滴滴出行）とアプリの合弁会社を作って関西地方で無料提供するなどし、うまくいったら全国で壁を取り払おうというような報道も見られた。また、トヨタ自動車がウーバーに5億ドル投資するという。通常国会ではご心配をおかけし

たが、経済産業委員会の所管で生産性向上特別措置法の中で規制のサンドボックスという話もあった。革新的事業活動評価委員会は、安念潤司委員長のもと動き出しており、安念さんが今後どういことをしていくのか、公明党もしっかり見ていきたいが、さまざまな提案が出てくると思う。政府では未来投資会議で次世代モビリティ・スマートシティというわけの分からないことを言い出し、国家戦略特区諮問会議でもスーパーシティという表現も出てきた。石井啓一国交相を輩出している公明党としては、同省ともしっかりと連携して変なことにならないよう、事業者の皆さんからのご意見をうかがって闘ってまいりたい」などと述べた。

旧民主党系のタクシー政策議員連盟の泉健太・会長代行（国民民主党政調会長）は、「わたしの地元京都では伏見稲荷大社でたくさんの中国人ドライバーが運転する得体のしれないクルマが集まっている。厳しく取り締まりをしていかなければならない。皆さんも全国でおかしなクルマは地域から追放しようという運動をしてほしい。さらにはライドシェア問題。未来投資会議などで竹中平蔵氏も、ライドシェアが世界中でいま最もホットだというような言い方をしているが、そんな話は終わっている。むしろ世界中で規制の必要性が声高に言われ、野放しではいけないというのが潮流ではないか。皆さんや乗務員とともに安全・安心をしっかりと届ける主軸となって、これからも輸送に取り組んでいく、それが未来の日本だ」などと述べた。